

ぼくと川の鬼の出話し

堀川 真木

○まは川にしたりみがあります。なぜか
と、ぼくの家の近くには、中川とリ
大きな川があるからです。よくそこには、
んたり花火を見たりしました。ほかの川は、
ぼくが小さいころいた川です。前はあぼ
てませんが、あさんがよくあつてくれ
ました。大きくなつてそこにはまた一人でい

ましたでも小さいころ大きいとかんじていた
川がいつたとき、小さくなつたとかんじま
した。そのことをあかさんに話すと、
「大きくなつたね」と
やさしく言ってくれました。最後の川は、キ
ンプでのりです。その川は、思ひでかい「げい
ぎ」がありました。キャンプにいく時も川がずっ
見えました。キャンプ場は、川でモ川がいつ
げい、ありました。でもその川を見たら、びお母さ
んを、おもい出し、アモないてしまいました。

でも数日たつとながてなかなくなりました。
こゝの時じ、かんしました。川とは、思い出がら
ばいつまでも大事な物なのだよ。川でおぼ
時は、いつも大事なだと思ひ見とれしさい
ます。前は、中川が見えるところによんでい
ました、でもぼくが大きくなつてひつつすし
さには、居こしたくないとだだをこねたのが
んで教へきれないほどになりました。でも居こ
しても中川が見える土手には、ちよとちよく
いつてりました。そこで友達もオラこともし

はしばあつて話したり遊んだり中川の土手で
いろいろなことをしてました。ほかの川を見て
きれいですきとおっていた川上り、みじかで
よごれていてもきれいできたなくても果しく
て光、ていなくとも友達をつれてきて人を
れてくる、ぼくは、やっぱり中川が好き川が
好きです。